

捕獲等事業評価シート  
様式

(新潟県 環境局環境対策課自然共生室)

## 評価シート（イノシシ）

### STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

#### ■ 事業概要

事業実施地域	柏崎市、上越市、妙高市、糸魚川市、十日町市、津南町、長岡市、村上市、新潟市
事業主体	新潟県 環境局環境対策課自然共生室
事業実施期間	令和7年9月1日～令和8年3月23日
捕獲手法	銃猟、くくりわな、箱わな
事業メニュー	②捕獲等メニュー
事業費	8,998,880円

(※) 捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

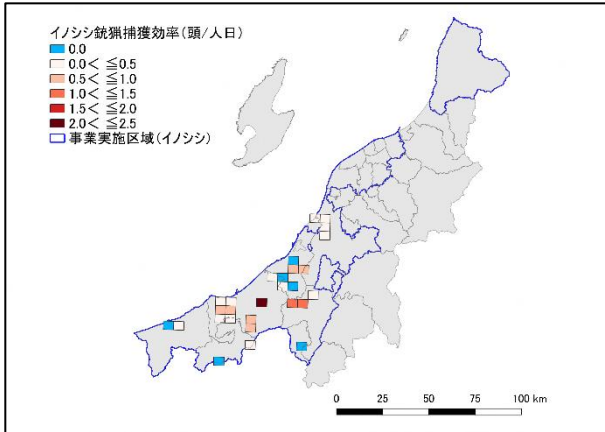
#### ■ 事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	合計 300 頭	銃猟：247 頭 くくりわな：115 頭 箱わな：39 頭 ※区分不明 27 頭 合計 428 頭	捕獲目標の達成率は142.7%で、目標を上回る捕獲実績となった。
捕獲作業量	銃猟：160 人日以上 わな猟：1,200 基日以上	銃猟：737 人日 わな猟：24,160 基日	計画を上回る作業量となった。
効率的な捕獲	令和6年度事業実績 ・銃猟：0.300 頭/人日 ・わな猟 くくりわな：0.004 頭/基日 箱わな：0.008 頭/基日	・銃猟：0.335 頭/人日 ・わな猟 くくりわな：0.006 頭/基日 ・箱わな：0.007 頭/基日 ※区分不明 28 頭	銃猟の捕獲効率は令和6年度事業と比較して高く、効率的な捕獲ができた。
事業に要した人員数			
安全管理体制	指定管理鳥獣捕獲等事業計画として提出	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	安全に予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	指定管理鳥獣捕獲等事業計画に記載したとおり、焼却処分又は埋設処分する。	提出した計画に沿って作業を行った。	予定通りの計画で事業は遂行された。
環境への影響への配慮	・可能な限り非鉛弾を使用するよう努めることとする。 ・CSF（豚熱）の発生状況に応じて必要な防疫措置を講じる。	提出した計画に沿って作業を行った。	予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の属性	令和6年度事業実績 ・銃猟 オス 133 頭、メス 124 頭 成獣 133 頭、幼獣 124 頭	・銃猟 オス 114 頭、メス 133 頭 成獣 185 頭、幼獣 62 頭 ・わな猟	昨年度よりもメスの割合が増えており、(銃猟 48.2%→53.8% わな猟：38.8%→45.9%) 定着が進んでいる可能性がある。

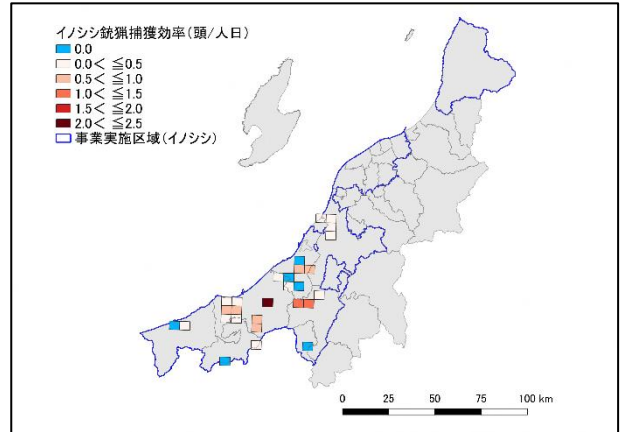
	<p>・わな猟  オス 161 頭、メス 102 頭  成獣 244 頭、幼獣 19 頭</p>	<p>オス 98 頭、メス 83 頭  成獣 167 頭、幼獣 14 頭</p>	<p>また、幼獣の割合も増えている。(銃猟：14.0%→25.1%、わな猟：7.2%→7.7%) これは捕獲が進み成獣は警戒心の強い個体の割合が増え、警戒心の低い幼獣が捕獲される割合が増えた可能性がある。</p>
--	--	--	--

- 添付図面（地点（緯度経度）地図/5 kmメッシュ地図/1 kmメッシュ地図）
  - ・ 捕獲数とその位置を落とした図（必須）
  - ・ 捕獲開始経過日数と捕獲数の関係の図（いつ頃どれくらい捕獲できたかが分かる）、CPUE（単位努力量あたりの捕獲数）の推移
  - ・ SPUE（単位努力量あたりの目撃数）の地図

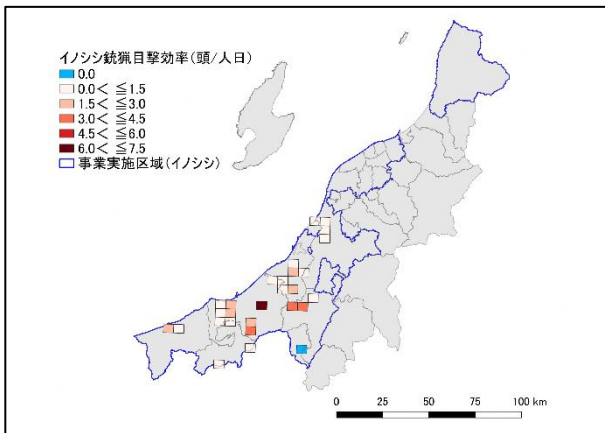
銃猟



捕獲数

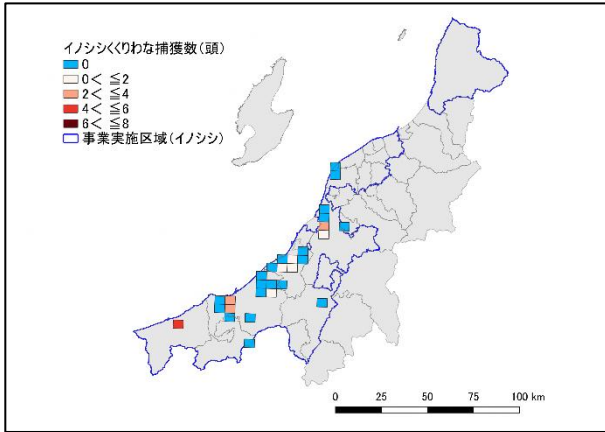


捕獲効率

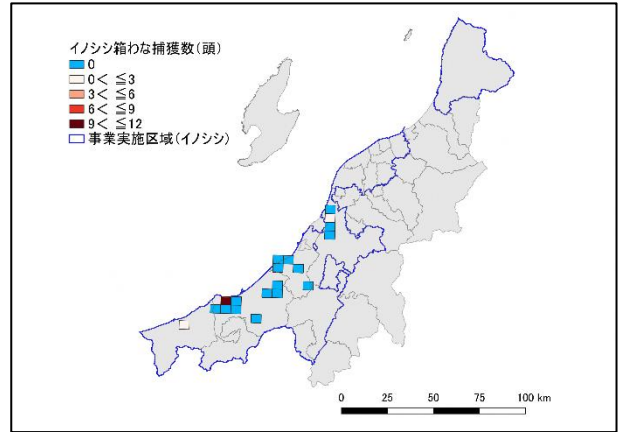


目撃効率

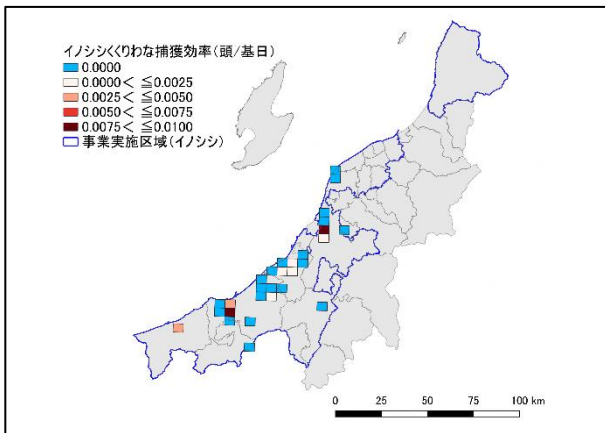
わな猟



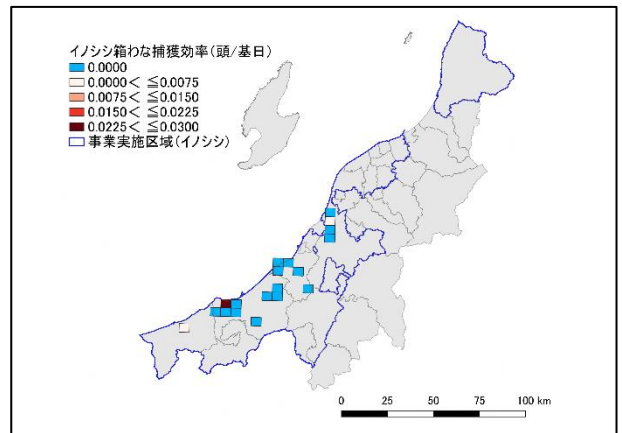
くくりわな捕獲数



箱わな捕獲数



くくりわな捕獲効率



箱わな捕獲効率

**STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。**

■ 事業実施地域

柏崎市、上越市、妙高市、糸魚川市、十日町市、津南町、長岡市、村上市、新潟市
---------------------------------------

■ 出沒（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	・銃猟捕獲効率、目撃効率 捕獲効率は 0.14 頭/人日、目撃効率は 0.52 頭/人日
事業実施後もしくは事業終盤・後半	・銃猟捕獲効率、目撃効率 1月から2月の捕獲効率は 0.35 頭/人日、目撃効率は 0.78 頭/人日
評価	・銃猟捕獲効率は後半上昇しているが、積雪により追跡しやすくなったことが大きな要因となっていると考えられることから、密度変化の評価は難しい。

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	
事業実施後もしくは事業終盤・後半	
評価	単年度での評価は難しいため、今後も継続してモニタリングを実施し、被害低減効果を測定する。

■ 添付図面

添付図面によって事業効果をわかりやすく認識できることから、添付いただくことでより正確な評価と次年度の査定につながります。できる限りの添付をお願いいたします。

- ・ 出没（密度）の比較図  
（例：センサーカメラ毎の撮影頻度の表・グラフ・地図化したもの、痕跡の多寡の地図、SPUE や CPUE の図 等）
- ・ 被害の比較表・図や比較写真  
（例：アンケート調査結果の比較表、植生被害に関する比較図、定点での比較写真 等）

**期間別銃猟捕獲効率**

項目	前半	後半
捕獲数	9	238
出猟人日数	64	673
捕獲効率	0.14	0.35

**期間別銃猟目撃効率**

項目	前半	後半
目撃数	33	526
出猟人日数	64	673
目撃効率	0.52	0.78

※ 前半：10月から12月、後半：1月から2月

**STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。**

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点 (STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。)

1. 捕獲に関する評価及び改善点*	
【目標設定】	評価： 目標 300 頭に対し、捕獲実績は銃猟 247 頭・わな猟 181 頭で目標達成率は 142.7%であった。捕獲実績が目標を大きく上回ることができた要因としては、比較的定着が進んでいる場所で集中的に捕獲を行うことで、効率的に捕獲できたことが考えられる。
	改善点： 今後も生息状況調査などによりイノシシの生息状況を把握し、生息密度の高い場所で効率的に捕獲する。
【実施期間】	評価： 積雪の少ない 12 月まではわな猟を中心に行い、積雪が多くなる 1 月からは銃猟中心に行い、気候条件に合わせた猟法を選択し、効率的な捕獲を行うことができた。
	改善点： 特になし。
【実施位置】	評価： 各市町村で比較的定着度が高いメッシュを選択し、集中的に捕獲を実施することで効率的な捕獲ができた。
	改善点： 今後もモニタリングデータなどを基に捕獲対象区域を選定し効率的な捕獲を行う。
【捕獲手法】	評価： 猟法を限定せずわな猟、銃猟を環境や積雪などの気候条件に合わせて適切に選択することで効率的な捕獲を行うことができた。
	改善点： 年度によって積雪状況などは異なるため、今後も状況に応じて猟法を選択できるように設定する。
【捕獲コスト】	評価： 捕獲数の目標は達成したものの、出猟人数やわなの設置日数は計画を大きく超えていることから、労力に対する捕獲数は計画よりかなり低いと考えられる。
	改善点： 捕獲方法などの工夫による捕獲効率の向上と合わせて過年度の実績などを参考に適切な捕獲努力量を設定する必要がある。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価： 銃猟は 2 名以上で実施し安全に配慮した。
	改善点： 引き続き、安全に配慮した体制を構築する。
【個体処分】	評価： 個体処分の方法は自家消費 364 頭、埋没 59 頭で、食用への利用率は 85.0%だった。
	改善点： 食用は全て自家消費のため、捕獲数が増加すると利用率は低下することが想定されるため、今後はその他の活用方法も検討していく必要がある。
【環境配慮】	評価： わな猟にて以下の錯誤捕獲が発生した。 ツキノワグマ 1 頭、ニホンジカ 3 頭、サル 1 頭、タヌキ 3 頭、キツネ 2 頭、アナグマ 1 頭
	改善点：

	ツキノワグマなどの大型獣の錯誤捕獲は作業者の危険も伴うことから、予防措置を徹底する必要がある。
【安全管理】	評価： 実施計画、安全管理規定に基づき、事故防止の徹底を図った結果、苦情や人身事故等の重大事故は発生しなかった。
	改善点： 引き続き、安全管理規定の遵守を徹底する。
3. その他の事項に関する評価及び改善点 関係法令を遵守し適切に事業を実施した。	
4. 全体評価 捕獲目標に対し 142.7%の捕獲を達成することができた。銃猟の捕獲効率は昨年度と比較して高く、効率的な捕獲ができたことが要因の一つと考えられる。ただし、捕獲に対する効果検証については十分にできていないことから、今後は捕獲事業と並行してモニタリングを行っていく必要がある。また、ツキノワグマを含めた錯誤捕獲が発生していることから、今後は錯誤捕獲を未然に防ぐ対策が必要である。	

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	第三期新潟県イノシシ管理計画では、イノシシの管理目標として以下を定めている。 (1) 令和 8 年度末までに推定個体数を 6,900 頭程度にする、(2) 農林業被害の軽減、(3) 生活環境被害の軽減（人身被害の発生件数はゼロ）。
寄与状況の評価	管理目標の中で、指定管理鳥獣捕獲等事業は、捕獲の強化を図ること、効果的な捕獲に取り組むモデル事業の実証をすることが事業の役割である。本事業の捕獲数 428 頭は令和 6 年度捕獲数 6,609 の 6%程度であり、イノシシの個体数減少に貢献していると考えられる。 一方で、今年度事業による被害や生息密度の減少などの効果を十分にモニタリングできていないことや、過年度のセンサーカメラ調査などの結果から生息密度の減少の傾向がみられないことから、イノシシの生息数減少に至っていない可能性がある。そのため、引き続き高い捕獲圧を与えることで個体数を減少させ、第二種特定鳥獣管理計画で定めるイノシシの管理目標の達成につなげることが重要である。